



ご挨拶

本日は“*A-Winds*27” 2008年 夏の演奏会にお越し下さり誠に有難う御座います。
「一人ひとりが創り出す町、歴史と文化が暮らしの中に息づく斑鳩の里」の歴史文化交歓の場
“いかるがホール”で皆様方にこうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds* 団員一同、心
より感謝申し上げます。

1999年10月の発足と同時に活動を始めて以来、このいかるがホールにて開催させていただきまし
た、1999年秋の“デビュー演奏会”を始めに、四季折々に開催する我々*A-Winds* 奈良アマチュ
アウインドオーケストラの定期演奏会も、おかげさまで9年余の間に27回目の演奏会を迎えることが
できました。これも我々*A-Winds*の活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の、御指導、
御支援あってのことと感謝しますとともに、団を代表しまして心より厚く御礼申し上げます。

日本中に向けて“吹奏楽というジャンルの音楽”の発展を、我々の音楽を通じて発信していこうと、
吹奏楽のオリジナル作品を中心に取り上げることが活動方針に掲げ、作曲家の方々を、実際に
合奏練習にお招きして、作曲家自身から作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合
奏指導を受けたりと、様々な吹奏楽研究、そして啓蒙に取り組み活動してまいりました。

時が経つのは早いもので、ちょうど9年前にそのような大志を掲げ毎日毎日夜中まで皆で音楽談
義を繰り返し、初めての立った舞台上の皆の晴れ姿の感動を、まるで昨日のようにおまえています。
そんな感傷にもひたりつつ、今回は演奏グレード 7! の2002年ABAオスワルド作曲賞受賞
曲の「ハリソンの夢」を始め、彩り鮮やかな吹奏楽オリジナル満載のプログラムをお届けします。

50人の奏でる音楽が、いつまでも皆様の心の中で、鳴り響き続ける音楽でありますようお願いを込
め、団員を代表しまして一句詠ませていただきます。

いかるがの 舞台を照らす 竜田川

今後とも、温かい御指導、御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷昌克

*

本日は“*A-Winds*27” 2008年 夏の演奏会にご来場いただき、ありがとうございます。
今回の演奏会は「時間旅行・時空を超える旅」と題して、第1部では「'70年代吹奏楽ヒットパ
レード」を、第2部では「18～19世紀のカリフォルニアとイギリスを舞台にした曲」をお送ります。

A-Winds 最年長(自覚は、、、全くありません)の私が学生だった頃='70年代はいろんな意味で
「激動の時代」でした。音楽界に目を向ければ、洋楽界では「ビートルズ解散」→「ハードロックの
台頭」へと、国内では「四畳半フォーク」→「ニューミュージック」へと移り変わって行った時代でも
あります。第1部ではその頃の吹奏楽を代表する、ハードでタイトで、そしてメロディアスな選りすぐり
の3曲をお聴きいただけます。

第2部では、20世紀の吹奏楽を代表する巨匠=アルフレッド・リードの1985年の作品と、現代の
英国を代表する作曲家=ピーター・グレイアムの2000年の作品、全く趣きの違う2曲をお聴きいた
できます。

『吹奏楽のオリジナル』という一つのジャンルでありながら、それぞれの方向性は全く違う5曲を集
めてお聴きいただき、第1部・2部と通してお聴きいただくことにより、音楽の移り変わり、ひいては
世の中の移り変わりも感じていただけるかと思えます。ある意味、本当の「時間旅行」を体験し
ていただけるのではないのでしょうか。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみください。

最後に、本公演開催にあたり関係各方面からご支援賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

“*A-Winds*27” 2008年 夏の演奏会 実行委員長 吉村由夫



ご案内

“*A-Winds*28” 2008年 秋の演奏会

2008年11月30日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール大ホール

ダンスにまつわる音楽で盛り上がりませんか!!

“*A-Winds*28”ではミュージカルからバレエなど、いろんな分野の曲を集めてみました!!

ダンスには音楽が付きもの。世界のダンスを、体感してください♪

“*A-Winds*28” 2008年 秋の演奏会 実行委員長 小倉明花



A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ

Piccolo 佐藤 由加里
Flute 佐藤 司
魚谷 陽子
Oboe 深沢 亮子
篠藤 文子☆
Eb Clarinet 長尾 恭子
Bb Clarinet 吉崎 淳子
竹村 明恵♪
大江 奈々
後藤 咲妃
森本 幸恵
上野 彩香
八木 望
Alto Clarinet 大西 晴巳
Bass Clarinet 小山 優美◇
辻田 綾子
Bassoon 満江 孝文
Alto Saxophone 鳥田 博一
宮本 祐輔
Tenor Saxophone 初岡 和樹◇
鹿野 麗子☆
Baritone Saxophone 吉村 由夫♪
Horn 久野 耕三♪
次田 哲平◇
小林 計昭
大田 雅美
山藤 恵美

Trumpet 魚谷 昌克
表 恭子
吉川 茂宏◇
篠木 章江◇
山本 洋介
小倉 明花
乙川 佳世
Trombone 萱原 淳嘉
小泉 文浩
田中 真二
鈴木 恵子
上野 遼太
Euphonium 大西 善郎
尾登 勇介
藤村 晃世
Tuba 平 涼美
植野 正男☆
岡村 明洋☆
堤 正治郎☆
St. Bass 佐藤 良一☆
Percussion 平井 晶♪
荒井 智子
谷口 麻子
辻 歩◇
久保 寛美♪
川本 理恵♪
豊川 史香◇
玉井 敦☆
寺西 剛☆
Piano 八木 真木
☆エキストラ
◇休団
♪A-27 演奏会実行委員



A-Winds メンバー募集

- 募集パート
 - ・オーボエ(イングリッシュ・ホルン) / 1名
 - ・B^bクラリネット / 1名
 - ・ファゴット / 1名
 - ・チューバ / 2名
 - ・コントラ・バス / 2名
 - A-Winds*の活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
 - ご自分で楽器を準備できる方
 - 全ての活動に賛同頂ける方
 - 18歳以上の方
 - 詳細はお問い合わせ下さい。
- 問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



2008年6月8日(日) 13:30開場 / 14:00開演
いかるがホール大ホール

主催 ● *A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ
後援 ● 斑鳩町 斑鳩町教育委員会 大和郡山市
大和郡山市教育委員会 奈良県吹奏楽連盟



プログラム

◆第1部 『'70年代ヒットパレード』編

シンフォニア・ノビリッシマ——指揮:魚谷昌克

SINFONIA NOBILISSIMA

作曲:ロバート・ジェイガー /Robert Jager

出版:エルカン・ヴォーゲル/Elkan-Vogel, Inc.

まずは1999年の12月にタイムスリップしてみましょう、場所はここ『いかるがホール』、我が*A-Winds*デビュー演奏会に。オープニングを飾った曲“ジュビラーテ”と同じ作曲家の作品で今回の演奏会も幕を上げましょう。

「高貴なるシンフォニア」というタイトルを持つこの曲は、アメリカの作曲家ジェイガーが26歳の時(1965年)婚約中だった女性(後のジェイガー夫人)に捧げたものとしても有名です。当然、楽曲そのものが素晴らしいからこそ余計な情報が喧伝されるわけですが……

曲は堂々とした力強いテーマの序奏で始まり、すぐにテンポを速め、軽快に発展していきます。美しい旋律を持つ中間部(この部分の旋律が特に奥さんの気に入っていた部分といわれています)が次第に盛り上がっていき、より速くより激しく変奏し、華やかなフィナーレを迎えます。

ジェイガーの作品中もっとも有名な曲だと言われています。

余談ついでに、この作曲家が日本に紹介され始めた70年代初頭、苗字の正確な発音がわからず“ジャガー”とか“(ドイツ語風に) イエイガー”とか、呼ばれていました。

シンフォニック・ムーブメント(交響的断章)——指揮:魚谷昌克

SYMPHONIC MOVEMENT

作曲:ヴァツラフ・ネリベル/Vaclav Nelhybel

出版:ベルウィン・ミルズ・パブリッシング/Belwin-Mills Publishing Corp.

1919年にチェコスロヴァキアのポーランカに生まれスイス→アメリカと移り住んだネリベルは、吹奏楽の新しい書法を開拓したという意味において重要な功績がある、と言われています。多くの吹奏楽曲を書いたのはアメリカに移住してからで、それ以前はオルガン奏者でもあった彼の作品にはパイプオルガンを思わせる重厚なサウンドが見え隠れしています。アカデミックな技法と現代的な技法の比類なき融合を達成した、との高い評価をも受けていますが、「機械的」で「感情移入のしようがない(エモーションalじゃないっ!)」と、評されることも多く、演奏者からの好き嫌いが激しい作曲家でもあるようです。

同国の作曲家としてはドボルザークやスメタナが著名ですが、彼らの作品の『親しみやすく美しいメロディー』とは対極の位置にある作曲家と言えるかもしれません。曲の解説はあえて省かせていただきます。聴いていただければ「病みつきになるか嫌いになるか」の、どちらかしかありません。

インカンテーション・アンド・ダンス(呪文と踊り)——客演指揮:吉崎直之

INCANTATION AND DANCE

作曲:ジョン・バーンズ・チャンス/John Barnes Chance

出版:ブージー & ホークス/Boosey & Hawkes,Inc.

1972年、39歳の若さでこの世を去ったアメリカの作曲家 J. B. チャンスの代表作と呼ばれているのがこの曲「インカンテーション・アンド・ダンス(呪文と踊り)」です。彼が長生さしていたら『現在の吹奏楽界』はもうちょっと違ったものになっていたかもしれません。

作曲当初の題名は「ノクターン・アンド・ダンス」だったとの情報もありますが、冒頭の無伴奏フルートによって紡ぎだされる旋律が低音群に引き継がれ、パーカッションの打ち込みが始まるまでの不気味さは、まさに『呪文』と呼ぶにふさわしいものと言えるでしょう。

マラカスのトリルをバックに、クラヴェス・ギロ・タンバリン・テンブルブロック・ティンパレストと加わり重なり合っていくこのパーカッション・ソリこそが「呪文と踊り」という曲の一番の『聴かせどころ』です。そろそろ何事かが起こりそうな、鳥肌がたつような不穏な空気を感じさせることが出来れば『打楽器真利に尽きる』のではないのでしょうか。パーカッション・ソリによって導き出された「踊り」のモチーフは、いろいろな楽器に受継がれ、やがて「踊り」は熱狂を極め、「呪文」のモチーフが金管で高らかに奏されるコーダ、木管の鮮烈な上昇型とトリルと続き、高揚した精神状態のままエキサイティングな楽句が戻り、一気に曲を閉じます。

◆第2部 『時空を超えた旅』編

エル・カミーノ・レアル——客演指揮:吉崎直之

EL CAMINO REAL(A Latin Fantasy)

作曲:アルフレッド・リード/Alfred Reed

出版:ピエドモント・ミュージック・カンパニー /Piedmont Music Company

200曲以上もの作品を創り、指導者としても有名であり、2005年9月に84才で生涯を終えた吹奏楽界の巨匠 アルフレッド・リードは、20世紀を代表する音楽家の一人とされています。私たち*A-Winds*は過去26回のコンサートで延べ15曲もの作品を披露してきました。

今回お聴きいただきます曲は、アメリカ第581空軍軍楽隊の委嘱を受け1984年から85年にかけて作曲された作品で、彼の代表作の一つとも言われております「エル・カミーノ・レアル」です。

1769年から1832年にかけて、セントフランシス派の修道僧はカリフォルニアのサンディエゴからサンフランシスコまでの600マイルの道筋に21箇所の布教施設を設け、これらの施設を巡る道程を「エル・カミーノ・レアル(スペイン語で『王の道』の意味)」と呼んでいました。

曲全体を通じて、宗教的な意味あいが深いわけではなく、副題の「ラテン幻想曲」が表すようにスペイン風な味わいが楽しめる名曲の一つです。

ハリソンの夢

HARRISON’S DREAM——客演指揮:吉崎直之

作曲:ピーター・グレイアム/Peter Graham

出版:グラマシー・ミュージック/Gramacy Music (UK)

コンサートの最後を飾る一曲は、現在イギリスの吹奏楽界において「圧倒的な存在」とも言われているピーター・グレイアムの2000年の作品です。13分以上の大作であり、演奏する立場からすれば『かなりの難曲』です。

グレイアムがインスピレーションを得たというデーヴァ・ソベル著『緯度』という本には、18世紀のイギリスで、国家的・人類的な課題であった「航海時の経度特定」の解決に生涯を賭した一人の時計職人ジョン・ハリソン(1693~1776)の姿が描かれています。

18世紀初頭、「緯度・経度」の概念は確立していたものの、比較的容易に測定できる「緯度」に対し「経度」を特定する方法は確立されていませんでした。1714年にイギリス議会は『経度法』を制定、「航海中の船舶が現在位置の経度を測定できる方法」に関し、その開発者に懸賞金を与えることとしました。※詳しい説明は省きますが、出航地(イギリス)の正確な時刻を把握していれば現在地の経度を特定することが可能になります。

ジョン・ハリソンは、船舶に積むことが出来る小型の機械時計を開発、天文学者たちからの迫害を受けつつも40年以上の長きに亘り小型化改良を推し進めていきました。あくまで自らの理想と美意識に基き、生涯を通じて探求を続け、困難を乗り越えるハリソンの姿勢、これは芸術にも通じるものであり、だからこそグレイアムに深い共感を与えたのではないのでしょうか?

日頃見ることが少ない、4/8拍子や4/2拍子で記譜されていたり、4拍5連符をしばしば使用したり、変拍子の嵐だったり、記譜の厳密さは研ぎ澄まされています。それらを確実に奏することで細やかな対比やニュアンスを表現することが求められ、ある意味「数学的」な曲といえるかもしれません。

長い説明は不要でしょう。この曲が素晴らしいのは単に「数学的」に極められたストラクチャー(=作曲家の職人芸)ゆえでなく、それを備えた上でなお、魅力的な旋律と十分な音楽の高揚が情緒的にもアピールし、一体となって感動をもたらすからに他ならないと思います。



プロフィール

客演指揮者:吉崎直之

奈良市立二名中学校、京都市立堀川高等学校音楽科(現京都市立音楽高等学校)、京都市立芸術大学音楽学部卒業。トランペットを八木茂夫、北村源三、藏野雅彦、有馬純昭の各氏に、指揮法を伊吹新一に師事。

大学在学中から、フリーランス奏者として活動。京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、宝塚歌劇場管弦楽団、広島交響楽団、京都フィル・ハーモニー室内合奏団等にエキストラ出演。

京都JEUGIAトランペット講師、大阪プラス・コンソートのコンサート・マスター、BREEZE BRASS BANDでの活動を経て、現在、プラス・フェイヴァリッツ、ウインドカンパニー、JAPANアカデミー・トランペット・アンサンブルのメンバー。ヤマハ株式会社契約インストラクター。

全日本学校音楽研究会講師。

奈良県立高円高等学校音楽科トランペット主科講師。

京都市教育委員会吹奏楽特別非常勤講師。榎原交響楽団、王寺ジュニアバンド・ハルモ、葛城市立白鳳中学校、山添村立山添中学校、香芝市立香芝中学校、香芝市立香芝西中学校、奈良県立高円高等学校、平城高等学校、畝傍高等学校、京都市立紫野高等学校、白頭学院建国中・高等学校、同志社香里中・高等学校の各バンドを指導。

天理音楽院講師。